

平成 30 年 6 月 14 日

## 森林環境教育 北九州市立楠橋小学校

楠橋小学校はクスノキの森に囲まれ、校内にも大木のクスノキが植えられ、先生方も自然や森林に興味を持っておられ、今年で3年連続して森林環境教育を受けています。

森林環境税を利用した事業という位置づけで、メインプログラムとは別個に、どのように“森林の大切さ”を子どもたちに伝えるか、そのプログラム内容や時間調整に苦労しました。

校長先生の森の大切さの話の後、森林インストラクター会より道具の使い方、安全確保の仕方などを説明し、作品作りを開始しました。

まずは素材の準備から始め、見本をじっくり観察するよう指導しました。観察する子どもたちの様子を見て、宮本責任者より「見本を真似するのではなく、この世に一つしかない自分独自の作品を創るよう」との話があり、「わかりました」と目を輝かせ、作品作りが始まりました。このアドバイスが心に残ったのか作品は独創的なものが多く、中には40cmを超えるような大型作品も現れ、工作室が素晴らしい展示場になりました。



<見本に目を輝かせる子どもたち>



<作品作りに夢中のこどもたち>

その後、今回の目玉である「森林の大切さ」を説く「森林の働き」や「木の実の話」になると一部の子どもたちに落ち着きがなくなり、少し寂しい気持ちになりました。ただ、作品の講評になると、挙手制で子どもを指名し、「工夫したところは?」、「難しかったところは?」、「自慢したいところは?」というような対話型の話で進めたこともあり、多くのこどもたちが会話の中に入ってくれました。今後、森林環境教育の話に関心の薄かった子どもたちに対しても心に残るような工夫をしなければと思いました。後片付けをしている時、「自分たちも去年やったよね」と廊下を歩いていた6年生の児童二人が懐かしがりながら手伝ってくれました。ありがとうございました。最後に先生も含めて今回の子どもたちへの森林



<自分の作品を紹介する子どもたち>

環境教育についての反省会を行ないました。火傷もなく無事に終わり一安心です。

(スタッフ: 宮本、諸石、赤松、野見山、後藤、中村)